

2015 年度活動報告 交換授業：インテンシブ 6A（漢字）

牧野 由紀子（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

上級の学習者を対象としている。クラスは 6 名である。アカデミックな文献・記事・ニュース等の理解ができるように漢字語彙を増やし、その意味や使い分けを学ぶとともに、漢字語彙以外の重要な語彙についても広く学ぶことを目標とした。テキストとしては、『日本語能力試験 N1・N2 試験に出る漢字と語彙』（桐原書店＊絶版）の第 2 部「語彙」の 1 日目～20 日目の問題 I～III（pp74-113）をコピー配布した。

2. 授業内容

クラスは 1 週間に 1 コマ（90 分）で全 14 回である。予習してくることを前提とし、1 コマ 2 課ずつのペースで進めた。各課で取り上げられている語彙は、一見よく似ているが意味や使い方が異なるものを中心となっているため、その使い分けが理解できるよう心掛けた。特に漢字語彙については、語彙を構成する漢字一字一字の意味の違いから語彙の意味の違いが生じているため、その点に注目して解説した。その後、練習問題を行い、典型的な使用方法や意味の違いを確認した。宿題としては練習問題のほかに短文作成を課した。学習語彙のすべてを使用語彙とする必要はないが、学生が自分で使ってみたいと思う語彙については適切に使用できるようになってほしいとの考えから、語彙は自由選択とし、教師がチェックしたのち返却し、それを学生が確認したのちにクイズを行ったため、クイズは授業の 2 週間後となった。

3. 成果と今後の課題

学生の授業評価として、進度については「早すぎる」と「もっと早くてもよい」と正反対の意見がでたが、内容については「とても役に立った」「面白かった」「漢字の勉強がよくできた」とおおむね好評だった。漢字語では漢字 1 字 1 字の意味の確認と漢字語の成り立ちに注目したが、これは今後、各自で語彙を増やすうえで有効と思われる。学生自身にも調べさせるなど、より主体的な学習方法をもっと工夫すべきだった。

テキストでは漢字語だけでなくオノマトペや外来語、紛らわしい動詞、副詞、接続詞などがとりあげられていたが、アカデミックな文章に慣れるという意味では学習項目として有効だと思われる。N1 を目指す学生のほかアカデミックな文をもっと読めるようになりたいという学生もいたため、前向きに取り組んでいた。短文作成でも各自、オリジナルな文の作成に取り組んでおり、自由選択は有効だったと思われる。